

ままの森

13

“ママ”ではなく“まま”



ままの森から見る眺め

「まま」とは、斜地、崖線などを指す言葉であり、関東地方の地名に多く、ままの下部ではよく湧水が湧いています。

長池と平野の間には、峠のように水面から崖が切り立っている場所があり、古くは「大まま」、現在では「ままの森」と呼ばれています。この近くには展望台があり、逆さ富士や富士山の眺望がよい場所として知られています。

夏休みや別荘滞在を利用して入院し、二重瞼に整形して帰るおしゃれな病院として有名だった。

村のみんなの

声

今でも森にあるお店の中からは富士山が見えるのかもしれない。

ままの森下には、戦前～昭和30年頃まで整形外科の病院があった。

昭和12年頃に東京の眼科医が土地を購入してままの森内田荘として夏期診療所兼別荘を建てた。

昔は崖のところからの山中湖と富士山の眺めがよかったが、今は木が茂って見えない。

湧水があれば落葉と川虫の作用で湖水は澄むはずである。

病院では、戦争で傷付いた人の手当てもしていた。

ままの森下には湧水が湧いており、イトトンボが多かった。

ままの森下の湖には、木の船が沈んでいるといういわれがある。

振り起こされた

宝

20 ままの森から見る眺め

● 湧水と木立

● 湖に沈んだ木の船

April

4月

山中湖産

14

ワカサギにウナギにシジミも！



ワカサギの人工孵化の装置（山中湖魚苗センター）

山中湖に昔から生息していた魚の種類は元々多くありません。ドジョウやウグイ（アカハラ）などの在来種もありますが、ワカサギやフナ（ビッターorベッタ）、ウナギ、オオクチバス（ブラックバス）、シジミなどは、漁業や遊漁を目的に放流されてきました。

明治から大正にかけては漁業も比較的盛んで、モリヤカゴ、トアミで獲った魚は燻製や甘露煮などにして自家消費や物々交換に充てていました。現在では遊漁が中心となっています。

～ワカサギ～

大正12年の関東大震災による激震で湖の魚が大量に死んでしまったことから、山中湖を漁場として復活させるため、ワカサギの放流に積極的に乗り出したことがはじまりです。現在でも網走や諏訪湖、芦ノ湖から買ってきた4～5億粒の卵を平野の魚苗場で孵化させて、毎年4月頃に放流しています。それが成長し、冬にワカサギ釣りを楽しむことができます。釣ったワカサギは天ぷらなどにして食されています。

村のみんなの

声

昔はもっと漁師がいたので、湖の魚をよく食べていた。

子どもの頃、一升瓶で作った仕掛けで魚を獲っていた。

台風の時、桂川の流れ出しで祖母がウナギ突きをしていた。

少ないが山中湖にはスッポンもいる。

湖がきれいな頃は、普通よりもひとまわり大きなシジミがよく獲れていたと聞く。

フナの甘露煮は昔はお祝いの食事でごちそうだった。

ドンコはのろまなので、子どもの頃に石の下などにいるのを捕まえて遊んだ。

山中湖のウナギは放流しているから「地うなぎ」が正しい。

昭和60年頃に、シジミが異常発生し、家族総出で獲りに行ったことがある。

放課後、棧橋でブラックバス釣りをした。

ハヤは苦いので「ニガッパヤ」と呼んだ。苦味のある腹わたを取り、乾燥させて食べた。

掘り起こされた

宝

- 魚類
- 魚料理
- 21 ワカサギの人工孵化
- ワカサギ甘露煮・酢漬け
- シジミとタニシ
- すっぽん

- フナの甘露煮
- うなぎ
- しじみ

達人

山中湖漁業協同組合

April

4月

養蚕

15

一家総出でおかいこさんの世話



長池のお蚕の神様

村のみんなの

声

昔は長池のどの家もおかいこさんを育てていた。

1年で百貫の繭をとった人は皆にすごいと称えられた。

蚕の世話が最も忙しい時は子どもも作業を手伝った。

今も残っている桑の木には、カブトムシやクワガタが集まってくる。

長池のお蚕の神様は、「おけいこがみさま」や「おけいこさま」と呼ばれ、とても大事にされていた。

お蚕の神様の祠は今でもあるが、もうボロボロ。

桑の木は強いので境界にするのにちょうどよく、集落の境は桑畑にしていた。

お蚕の神様のことは若い人はあまり知らないだろう。

祠は古くて重みを感じられる。林の中にひっそりと建っている雰囲気がいよい。

かつては、毎年、春と秋に蚕の祭りをしていた。

今の長池コミュニティセンターの場所に繭を集めていた。

掘り起こされた

宝

22 お蚕の神様

● おかいこさん

昔は蚕を育てていたのもので、そのご利益として秋葉神社と金櫻神社にお札を買いに行き飾っていた。

村は高冷地であることから蚕の病気も少なく養蚕に適していたため、大正から昭和の中頃にかけて最盛期の頃には、村内のあちこちに蚕の餌となる桑畑が広がっていました。

現在、養蚕を行う家は村内にはありませんが、4月に甲府の金櫻神社に蚕神様のお札を買いに行くことや、長池のお蚕の神様を祀った祠、ダンゴバラの繭型の団子などで、その名残をうかがい知ることができます。

April

4月

石割神社祭典

16

大岩に無病息災、幸運を願う



石割神社

標高1143mの石割山の8合目付近に位置する石割神社は、漢字の「石」の字の形に割れた大岩を御神体とする珍しい神社です。この大岩の隙間を3回くぐると無病息災の御利益や幸運が開けるといわれ、岩からしみ出る水は霊水として眼病、皮膚病に効くと伝えられています。

かつては山岳信仰の霊場で女人禁制でしたが、今ではハイキングコースとして多くの登山者に親しまれています。そのコースの途中にはカツラの巨樹が生えており、カツラが高地に生育していることは珍しいため、御神木として崇められています。

またこの御神木の後には、「お釜石」という水の沸き出る石があり、平野の水源と言われ、古くは早魃になるとこの場所で雨乞いの儀式が行われたと伝えられています。

毎年4月9日と10日の石割神社祭典の際には、たくさんの人々が参拝のために登ります。祭典後には氏子達によるバーベキューが行われ、登拝した人たちに振る舞われています。

村のみんなの

声

結婚式の時に神社の入り口で神様にあいさつする風習があった。

石割山は平野峠とおって東海自然歩道から花の都公園へ、マウントフジホテルに尾根づたいで行くことができる。

長田家の祖先である初代庄兵衛がおつげを受け、神社としたのが始まり。

石割神社に行く途中にあるカツラの大木は、桂川の名前の由来と言われる。

ハイキングコースにはハイカーがけっこういる。

昔は農耕が始まる前の景気づけの祭りだった。

現在は、夜に大人や子どもが踊り、みんなが楽しむ。

本来は博打とぼくの神様とも言われており、忍野や道志から花札などの博打を打ちに人が来るくらい有名だった。

掘り起こされた

宝

- 石割神社祭典
- 23 石割神社
- 24 石割山 (大小、てんぐ)
- カツラの大木

達人

石割神社宮司 長田敏貴さん

April

4月